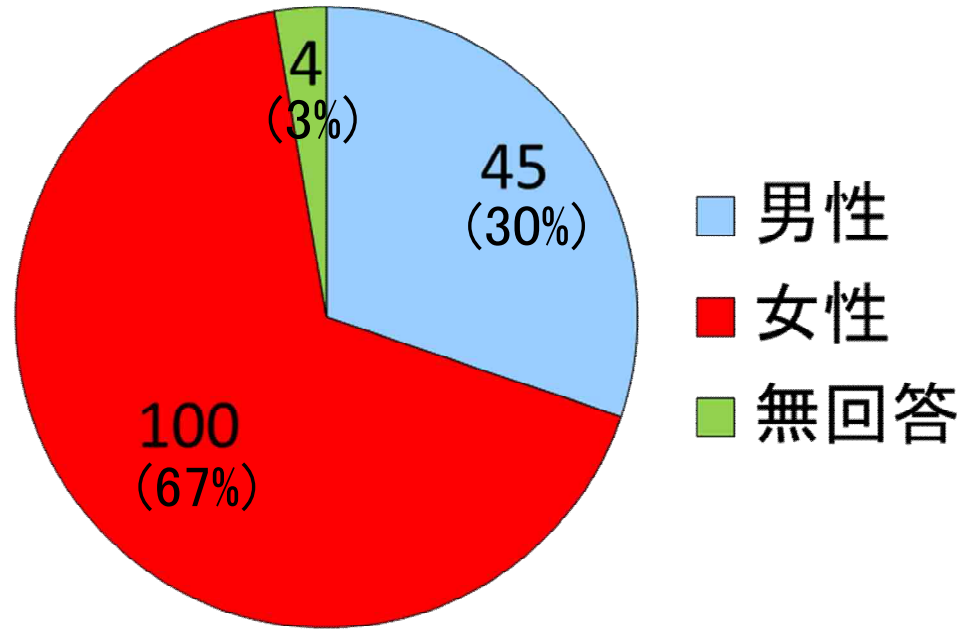


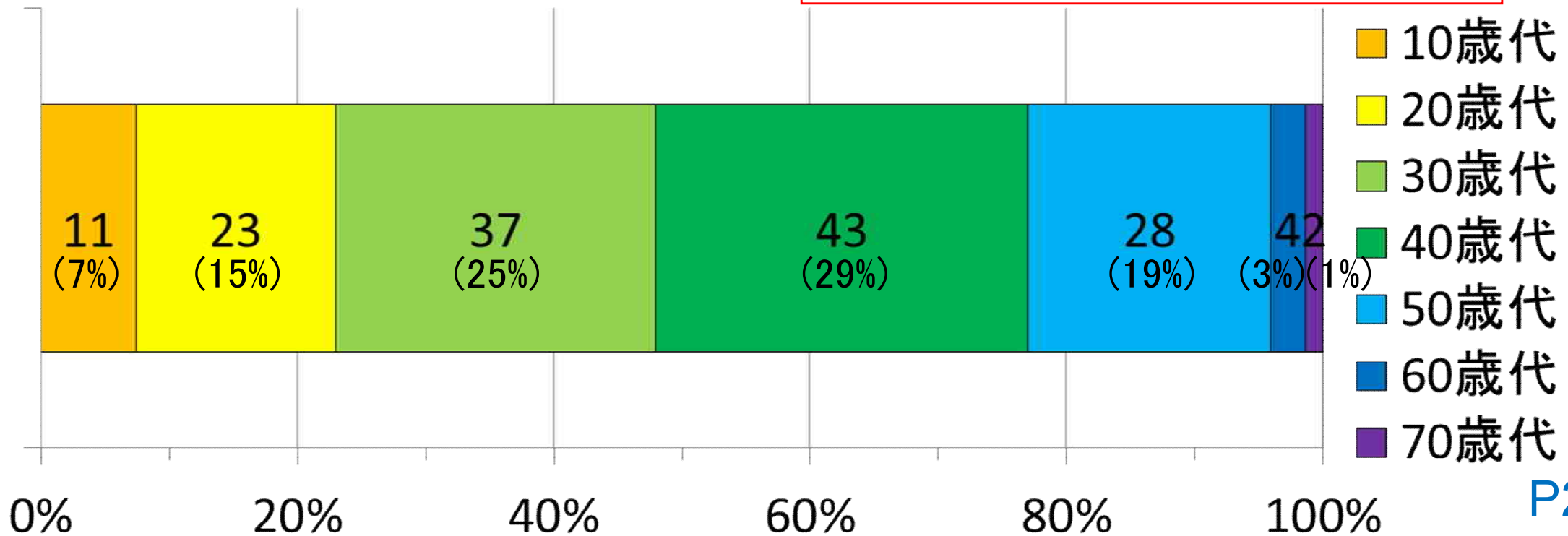
静岡県の
新型コロナウイルス罹患後症状
(後遺症)アンケート調査結果
(2022年1月31日時点)

静岡県健康福祉部 新型コロナ対策企画課

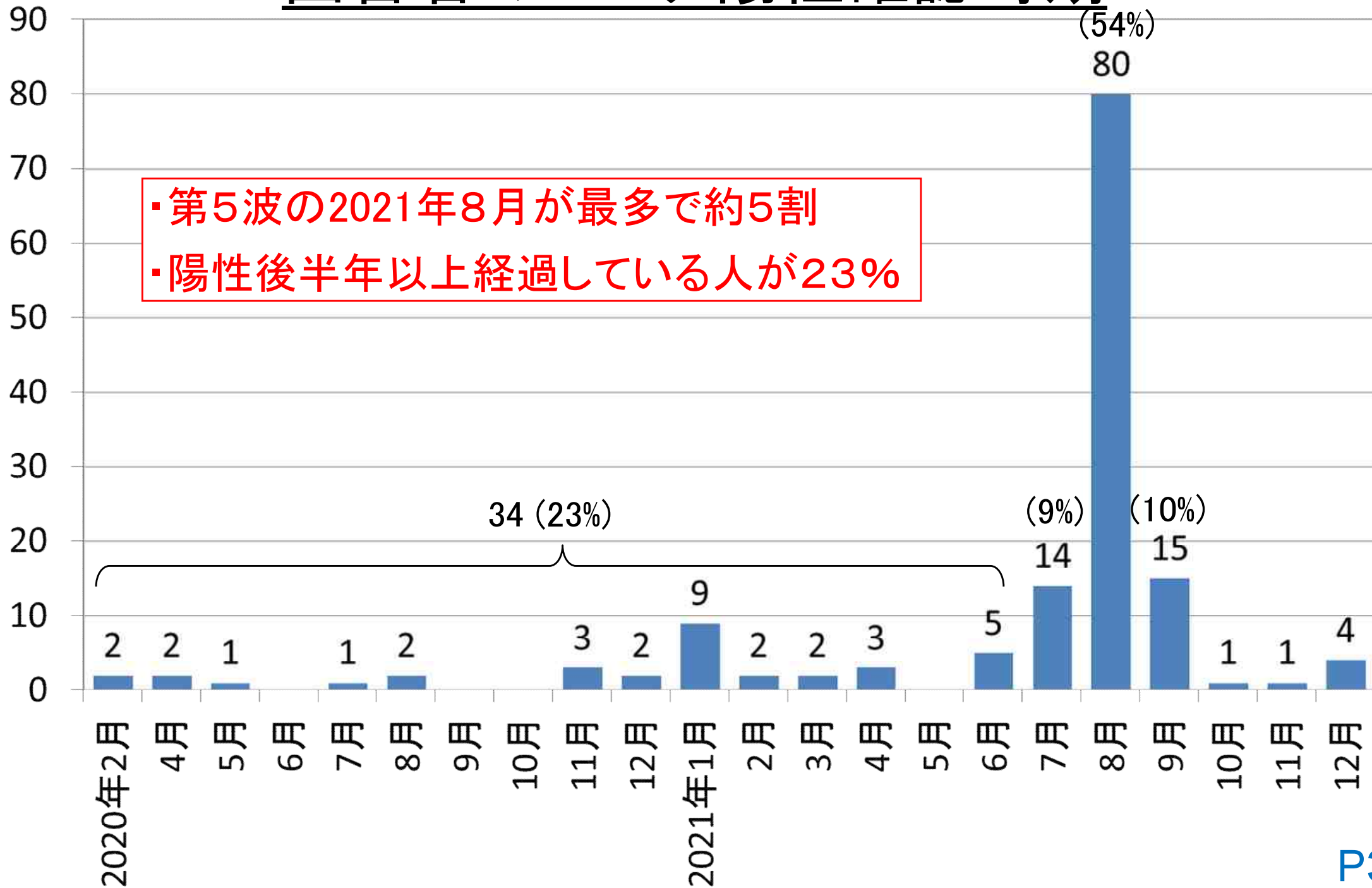
2021年12月6日～2022年1月31日 回答者149人の状況



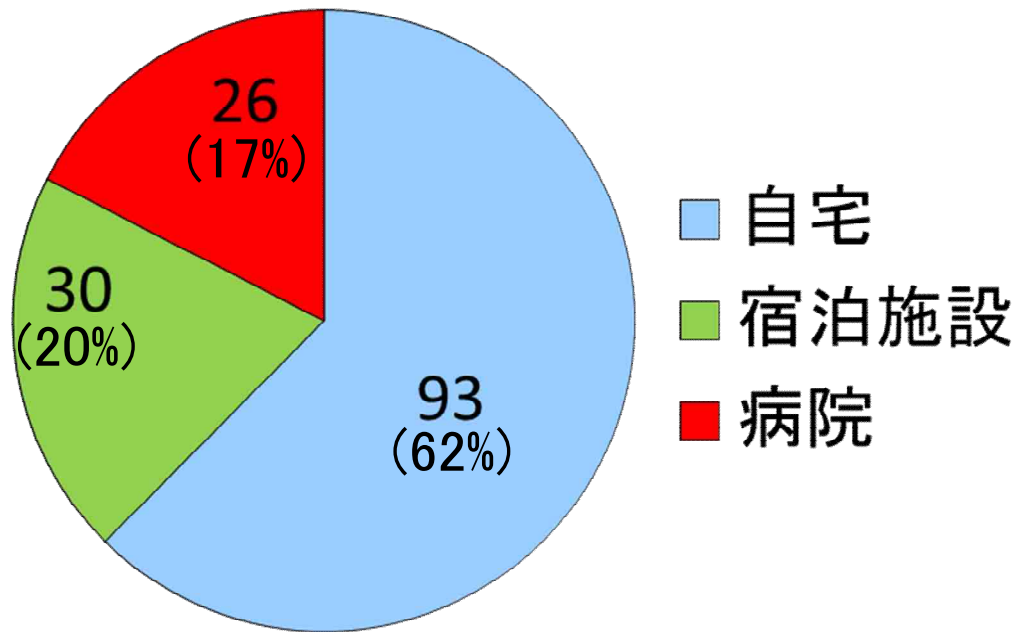
- ・ウェブでの回答フォームは、
日本語 139人
やさしいにほんご 6人
インドネシア語 3人
ベトナム語 1人
- ・女性が約3分の2
- ・40歳代、30歳代、50歳代の
順で多く、この3年代で約7割



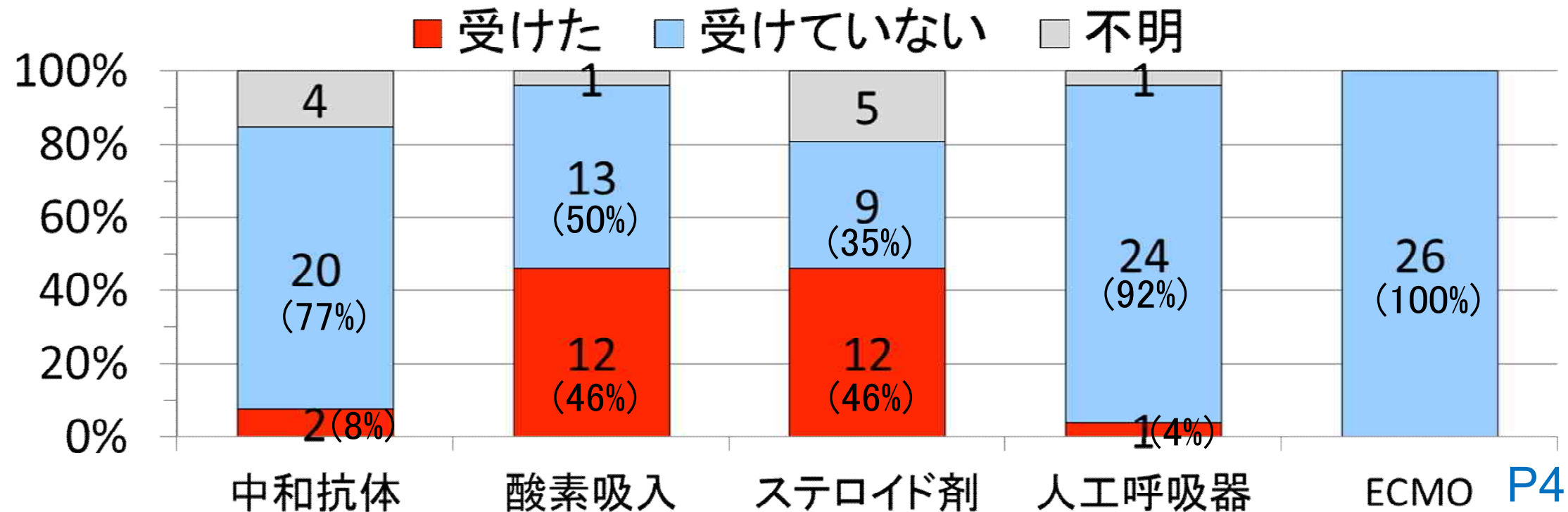
回答者のコロナ陽性確認時期



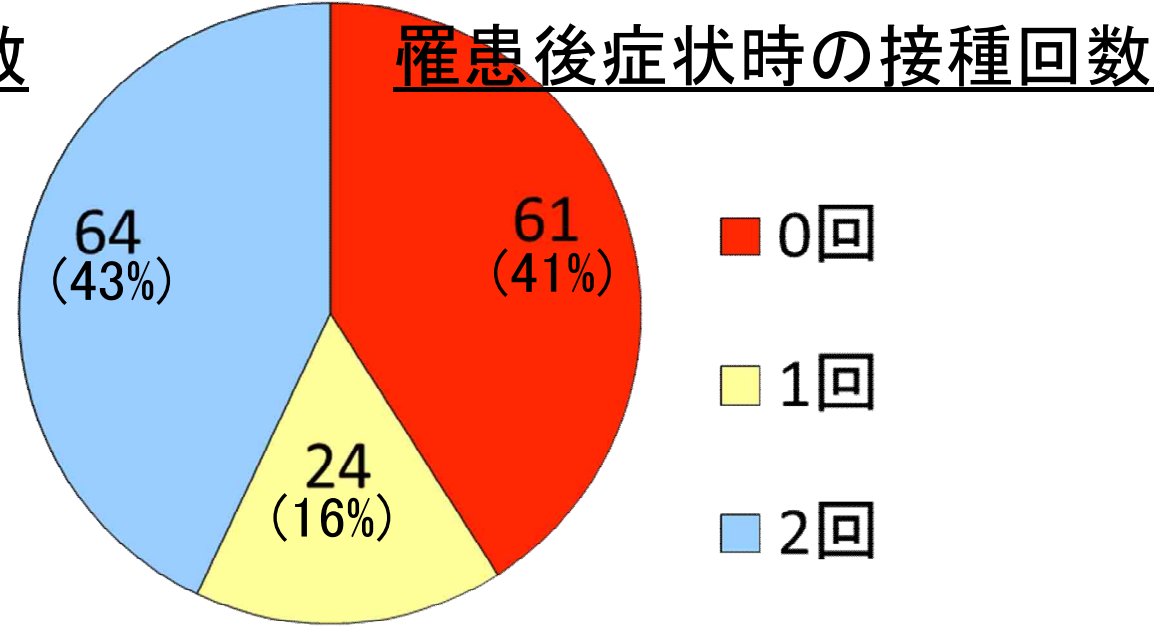
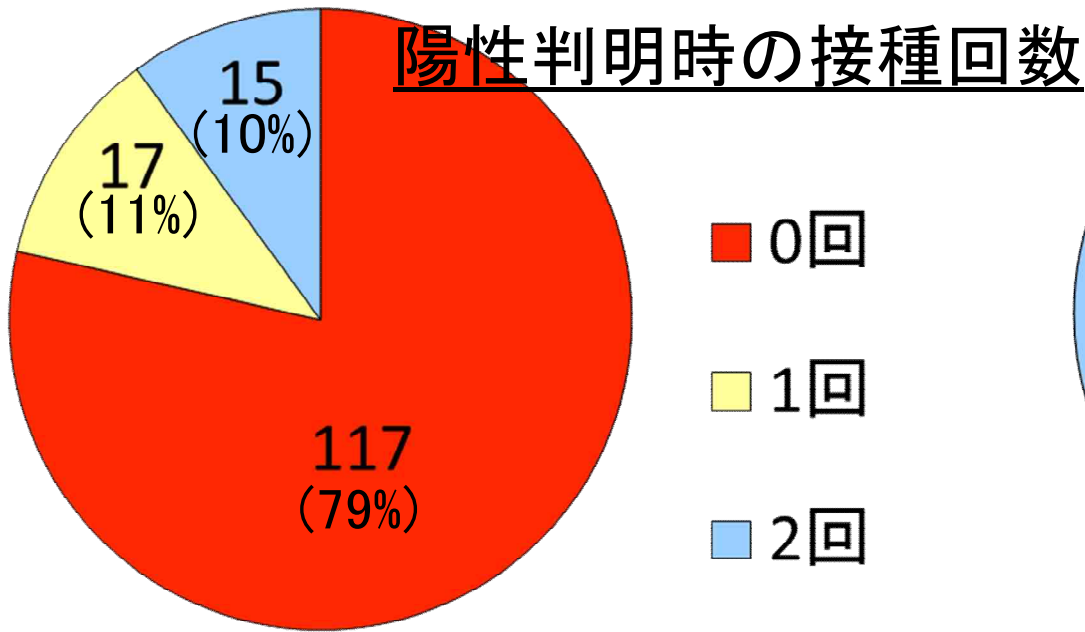
回答者の療養場所と治療内容



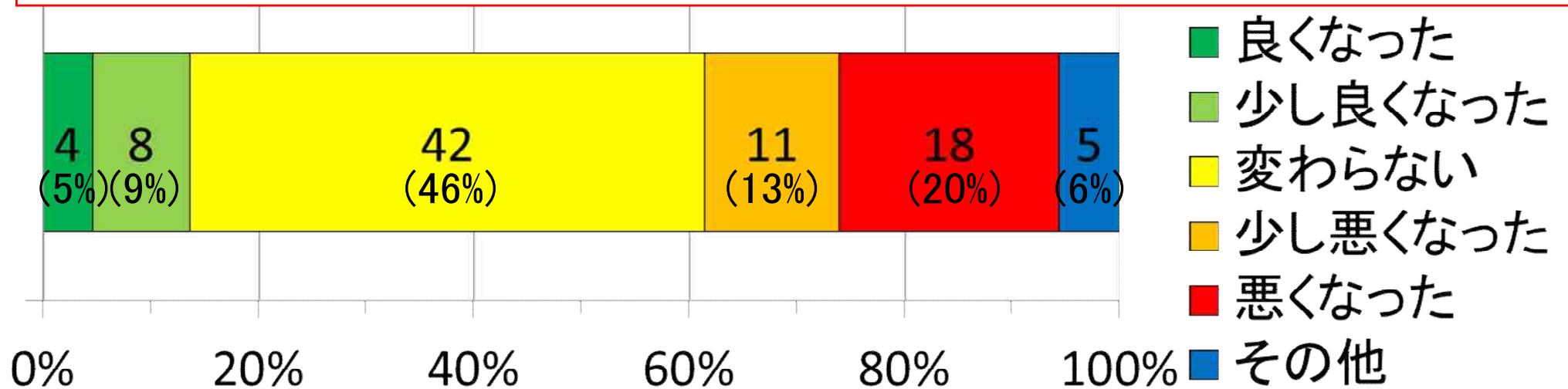
- ・自宅療養が最多で約6割
- ・入院者の半数弱で酸素吸入、ステロイド剤投与を受けた
- ・人工呼吸器は1人、ECMOによる治療を受けた人はいなかった



回答者のワクチン接種状況と接種後の症状変化



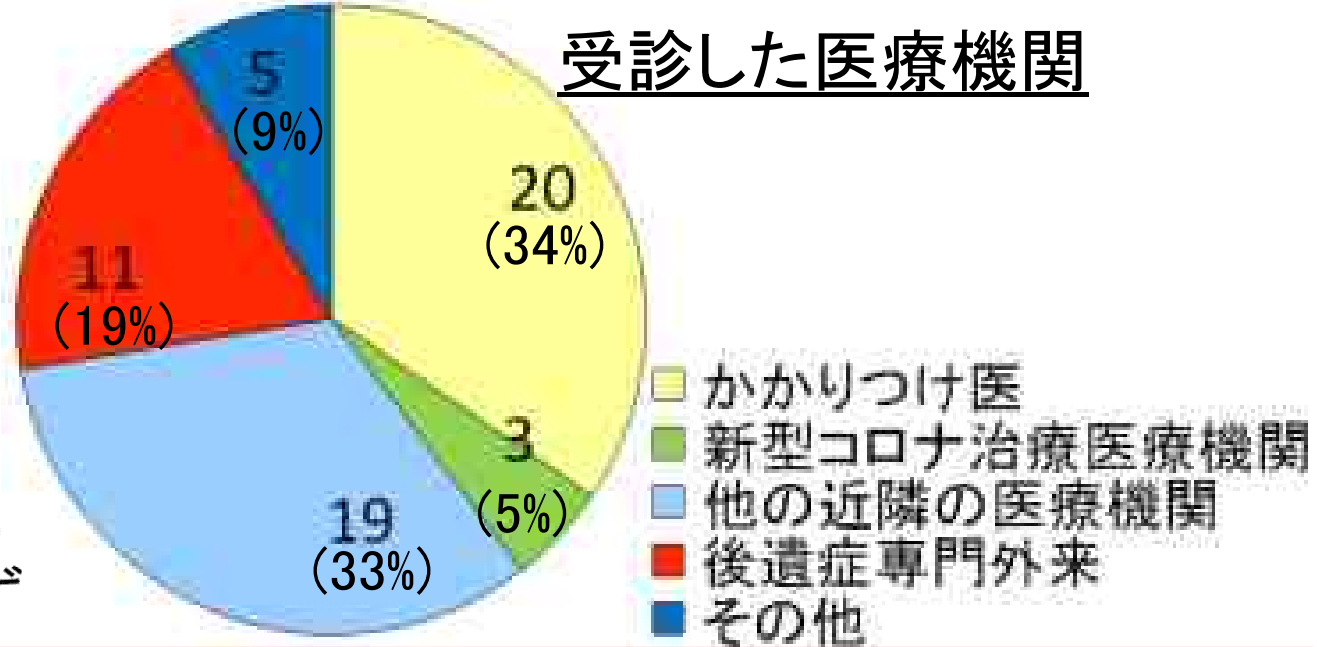
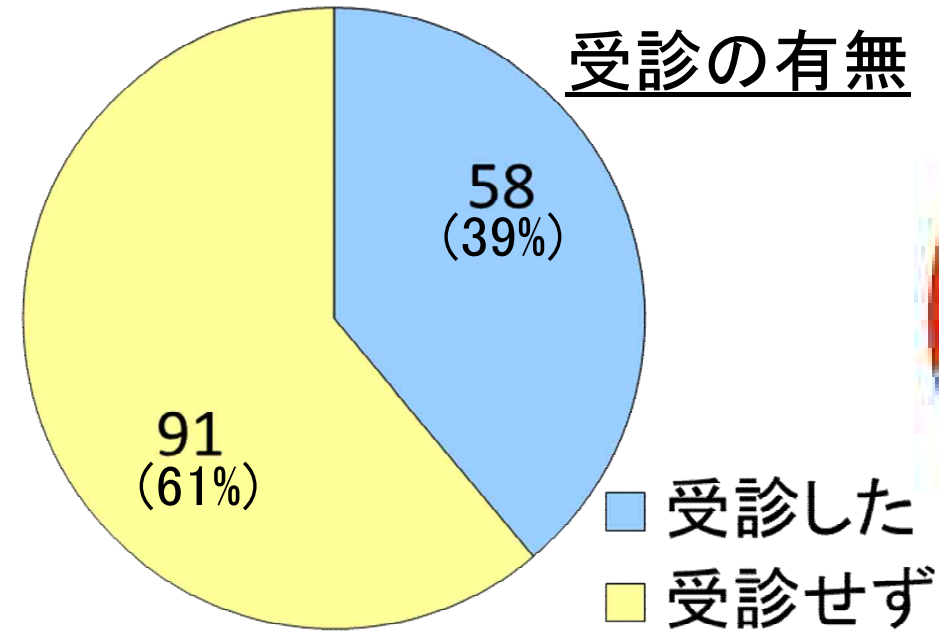
- ・陽性判明時の接種回数は、0回が最多で約8割
- ・罹患後症状のある状況で、1回ないし2回接種した人が約6割
- ・接種後の罹患後症状の変化は、改善約1割、不変約5割、悪化約4割



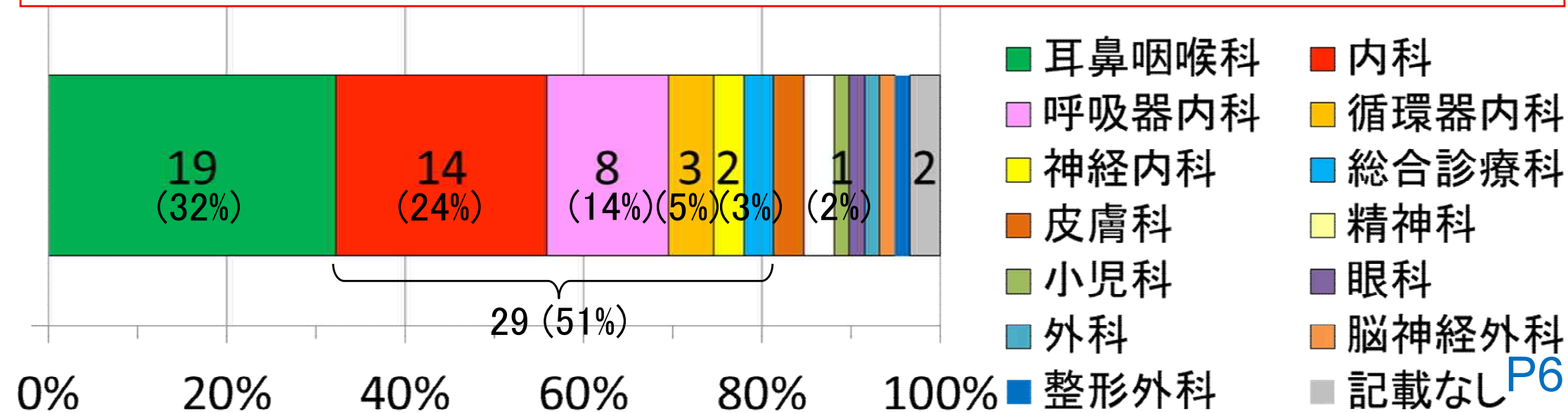
回答者の受診状況

受診の有無

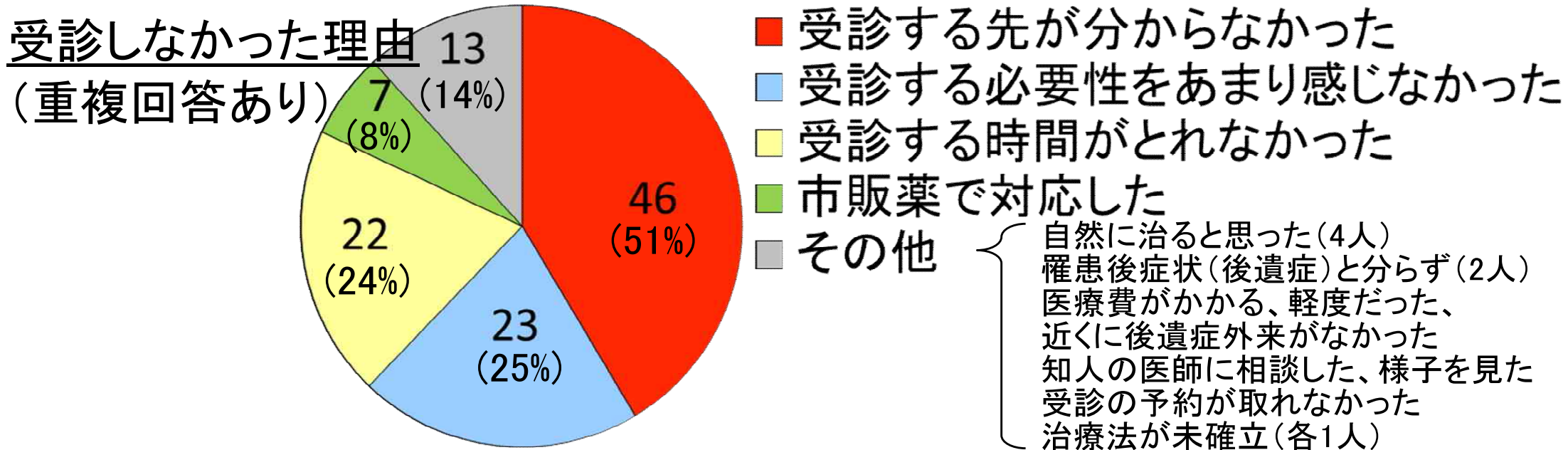
受診した医療機関



- ・約4割が医療機関を受診し、その各約3割はかかりつけ医と近隣医療機関
- ・受診した診療科は、内科系が最多で約5割で、次いで耳鼻科で約3割

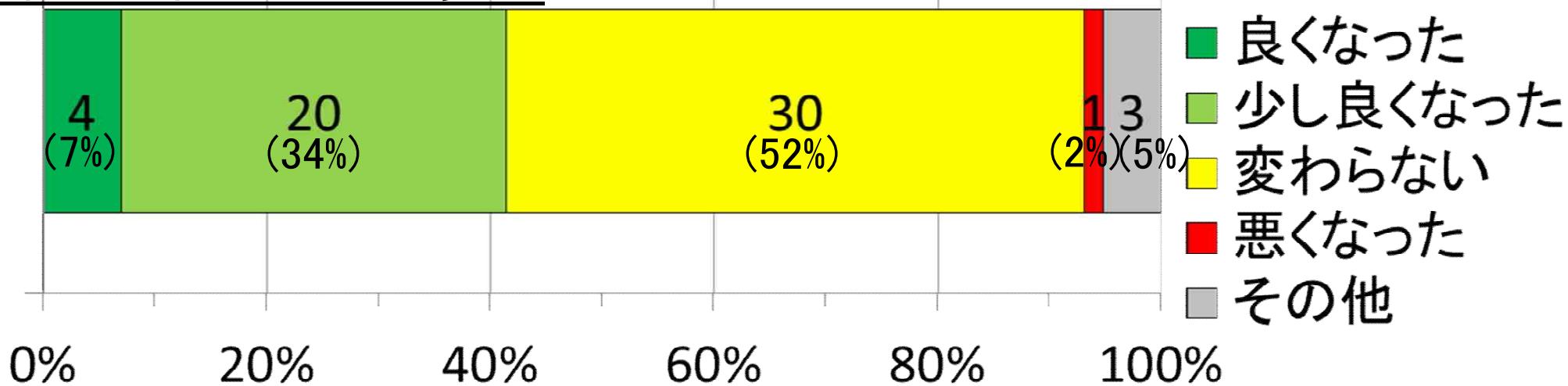


受診しなかった理由、受診した後の変化



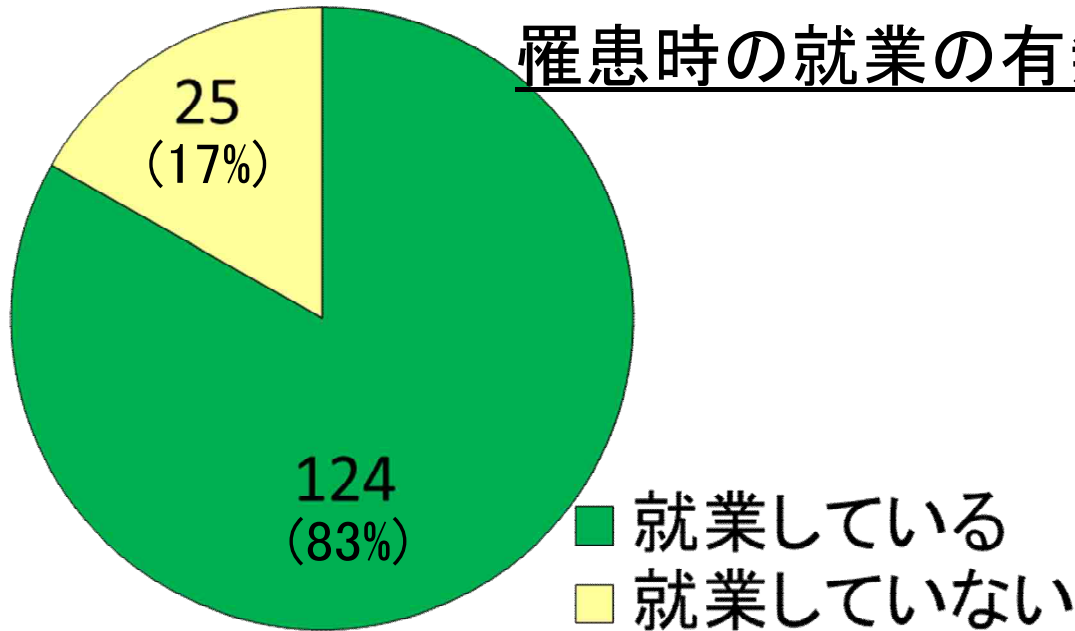
- ・約5割が受診先が分からず、受診しなかった
- ・受診後、改善したのは約4割で、約6割は改善しなかった

受診した後の症状の変化

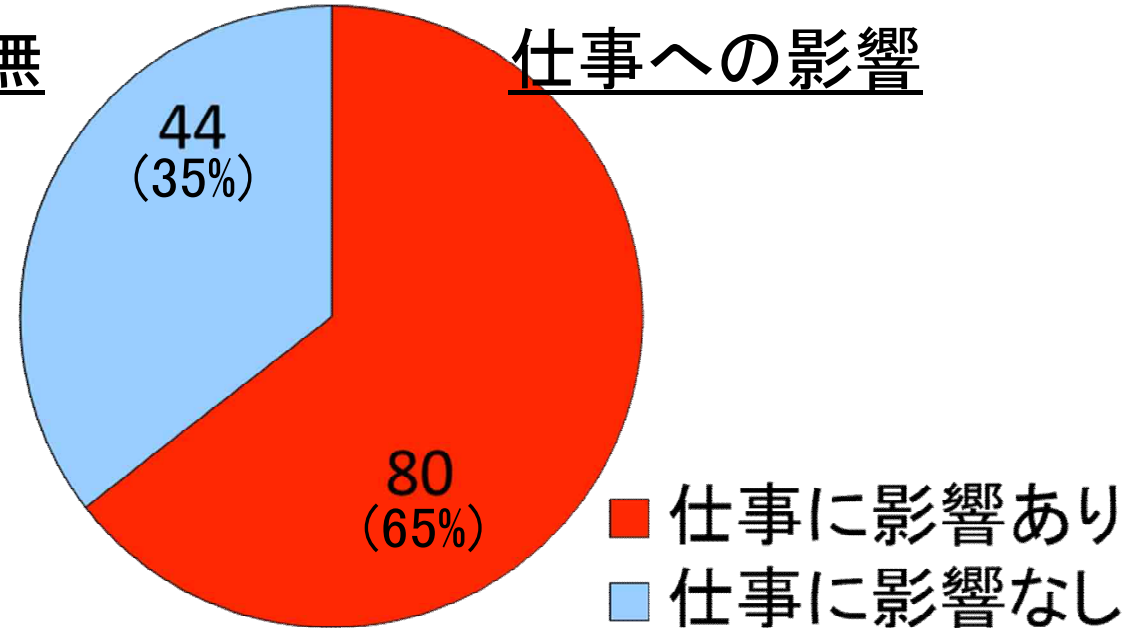


罹患後症状の仕事への影響

罹患時の就業の有無

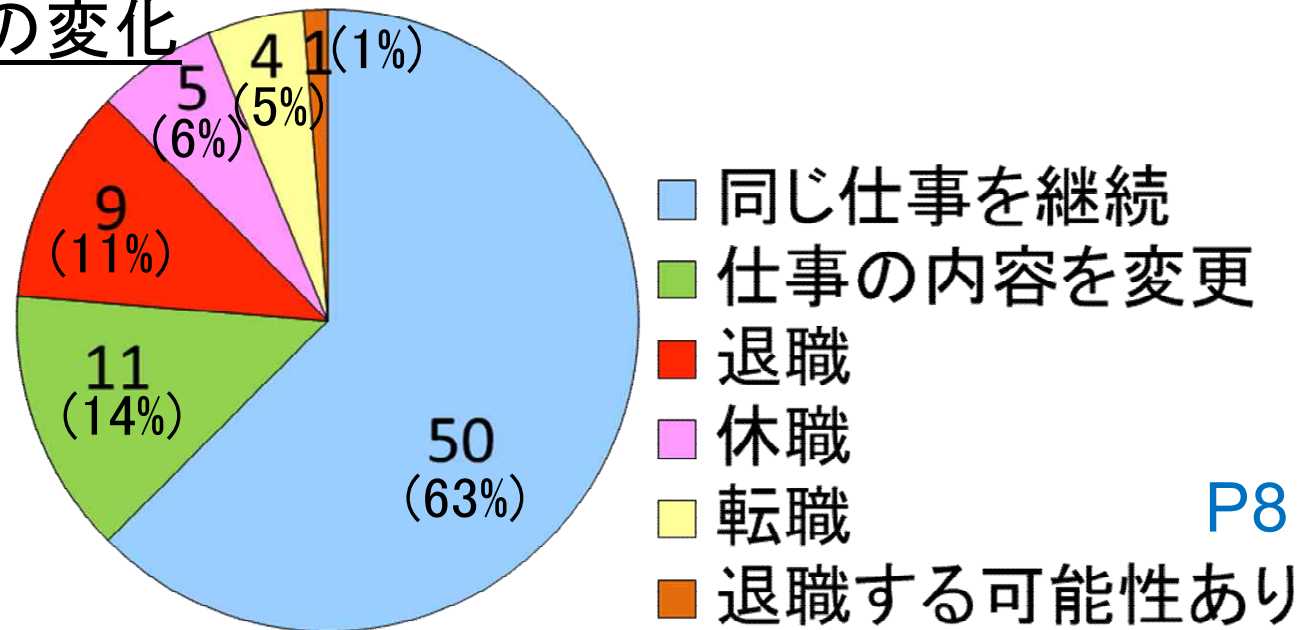


仕事への影響



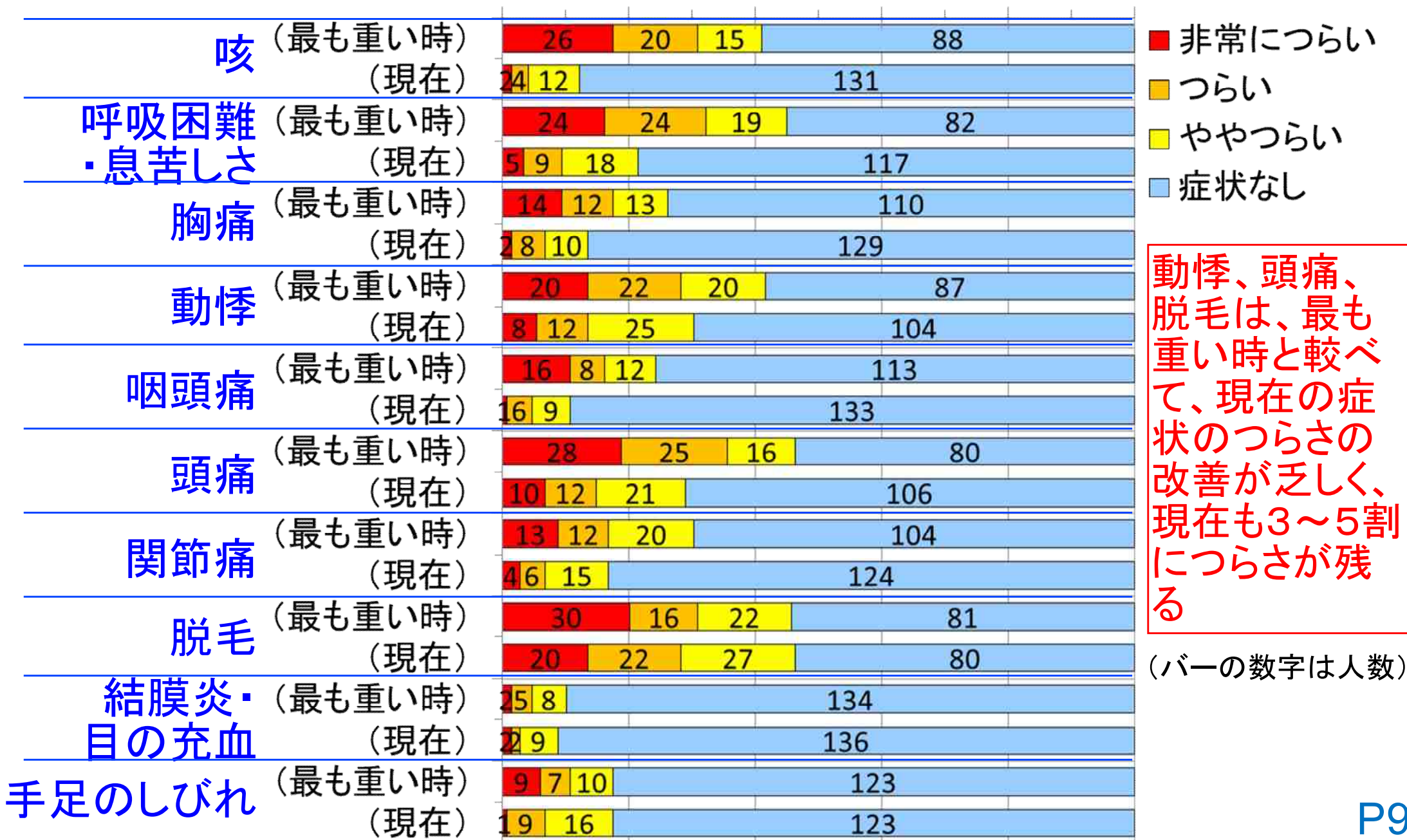
罹患後症状による仕事の変化

- ・罹患時就業していた人のうち3分の2で、罹患後症状による仕事への影響があった
- ・仕事に影響があった人のうち約4割が仕事の内容を変えたり、休職・退職・転職をしていた



症状のつらさの変化（最も重い時と現在の症状）①

0% 20% 40% 60% 80% 100%



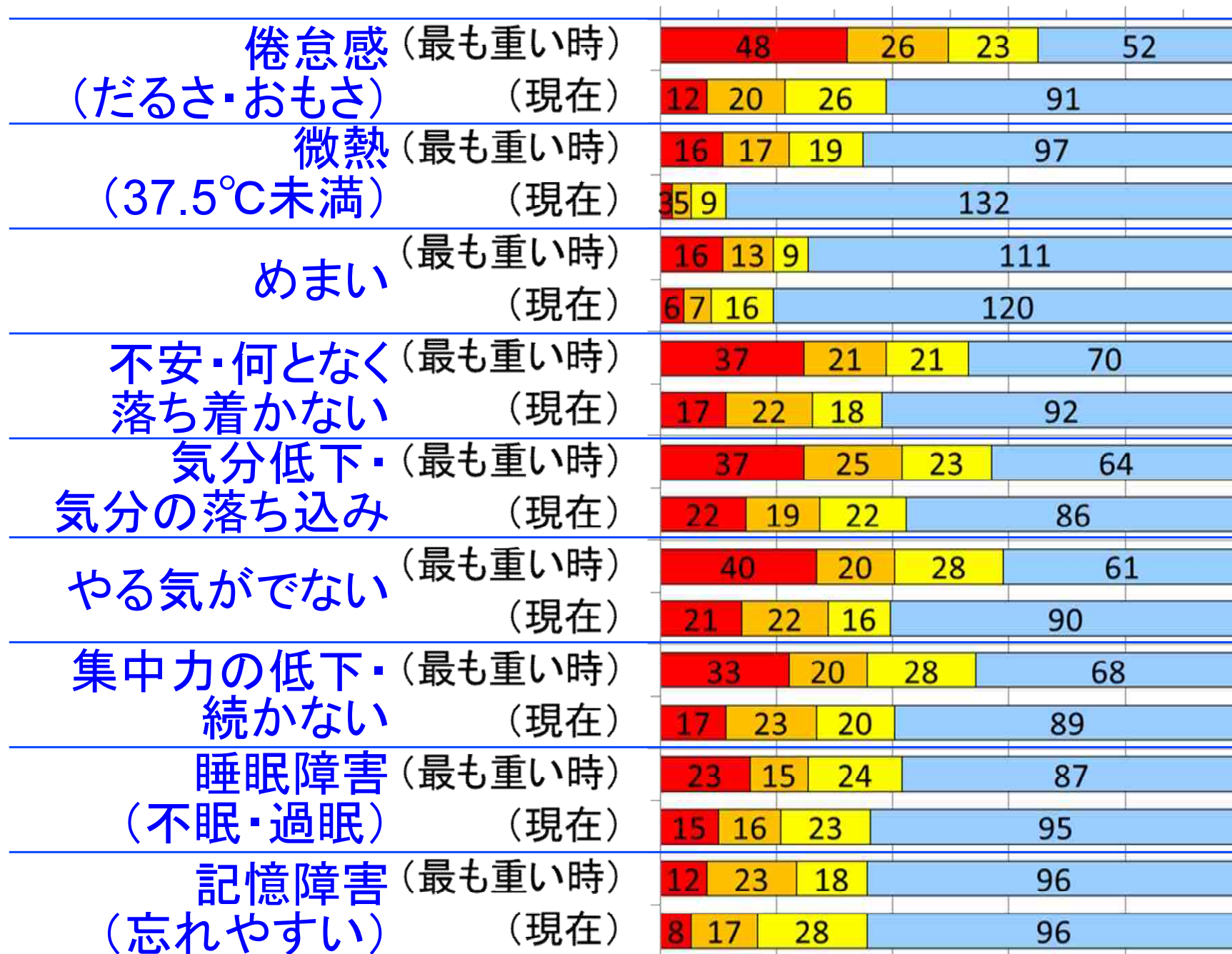
動悸、頭痛、脱毛は、最も重い時と較べて、現在の症状のつらさの改善が乏しく、現在も3～5割に辛さが残る

（バーの数字は人数）

症状のつらさの変化(最も重い時と現在の症状)②

0% 20% 40% 60% 80% 100%

P10

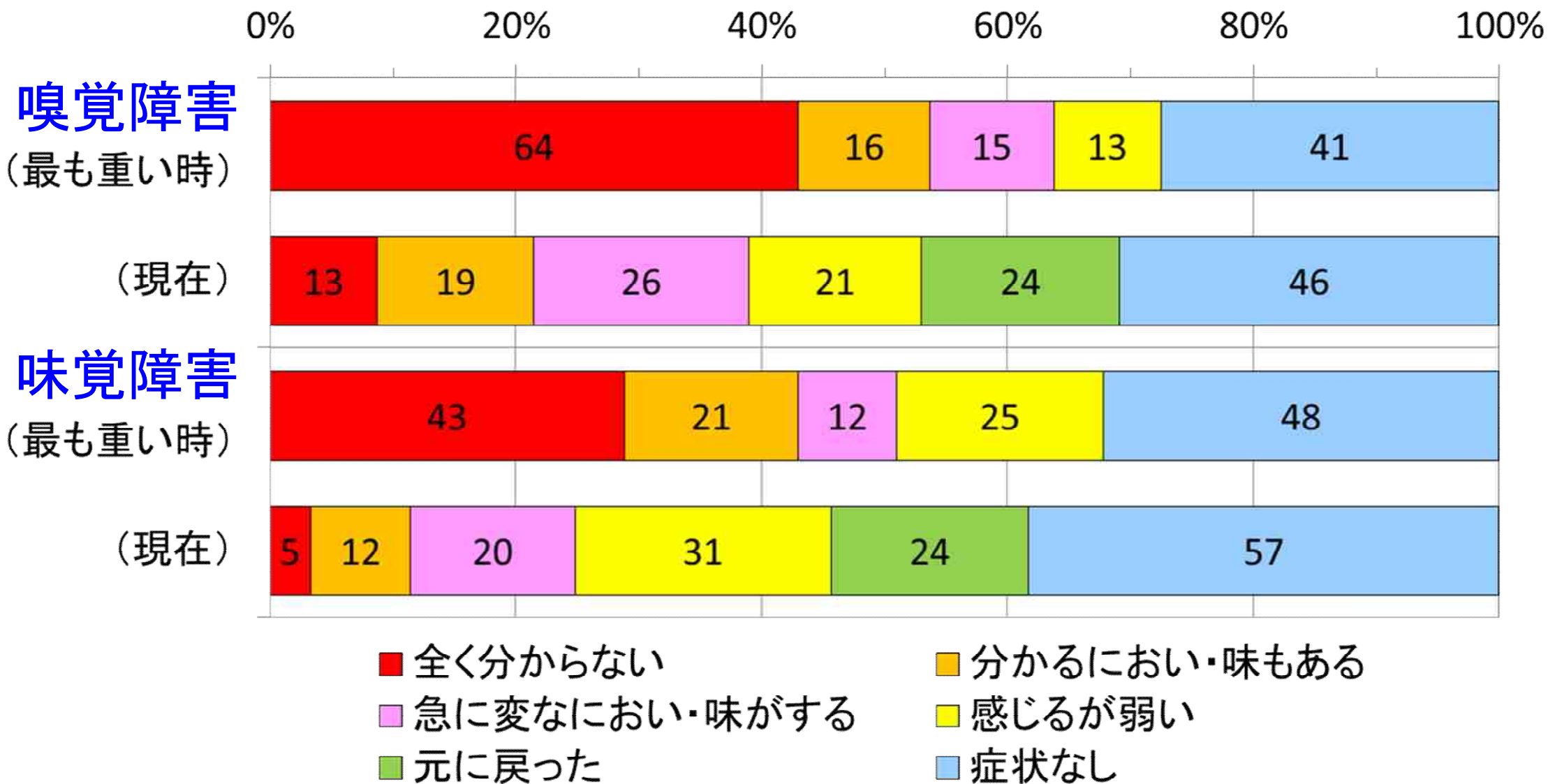


- 非常につらい
- つらい
- ややつらい
- 症状なし

倦怠感、不安、気分低下、やる気が出ない、集中力低下、睡眠障害、記憶障害は、最も重い時と較べて現在の症状のつらさの改善が乏しく現在も約4割につらさが残る

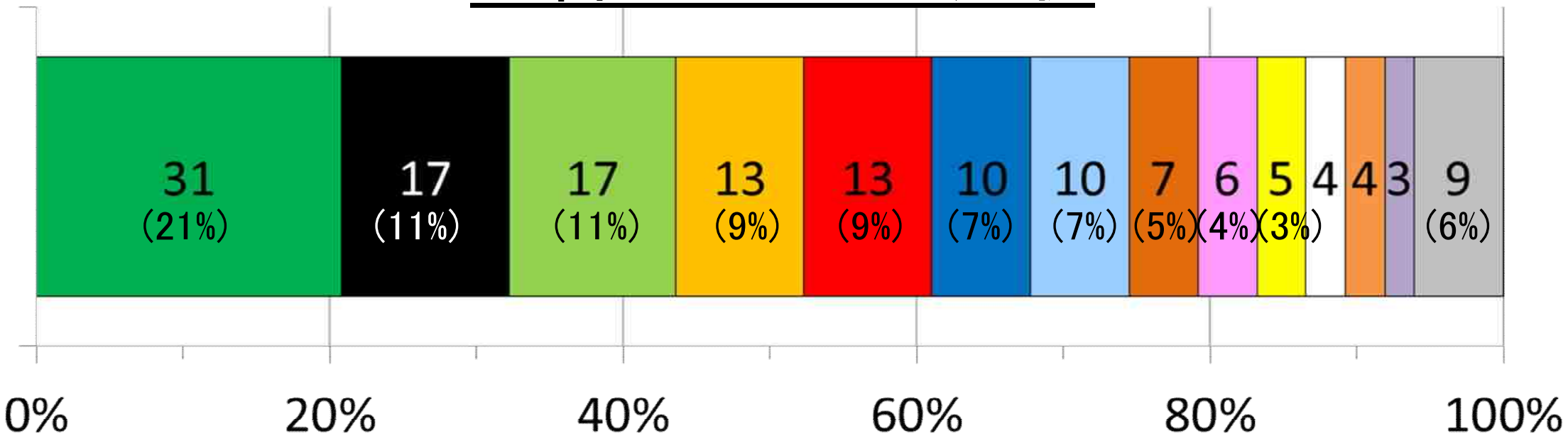
(バーの数字は人数)

症状のつらさの変化(最も重い時と現在の症状)③



- ・嗅覚・味覚障害は、最も症状が重い時には全体の約7割に達する
- ・嗅覚・味覚障害は、全体の約半数で現在も続いている

一番つらかった症状



- 嗅覚障害
- 味覚障害
- 呼吸困難・息苦しさ
- 頭痛
- 睡眠障害
- 気分低下・気分の落ち込み
- 集中力の低下・集中力が続かない

- 脱毛
- 倦怠感
- 咳
- 動悸
- めまい
- 記憶障害
- その他

手足のしびれ、微熱、不安・落ち着かない 各2人
結膜炎(目の充血)、胸痛、やる気がでない 各1人

一番つらかった症状としては、嗅覚・味覚障害と脱毛が多かった

まとめ

1. 2021年12月6日～2022年1月31日の回答者149人のうち、女性が約3分の2の100人であり、40歳代、30歳代、50歳代の順で多く、この3年代で約7割を占めていた。
2. 陽性確認時期は、第5波の2021年8月が最多で約5割だが、陽性後半年以上経過している人も約4分の1であった。
3. 療養場所は、自宅療養が最多で約6割であり、入院者の半数弱で酸素、ステロイド剤の投与を受けており、人工呼吸管理の人も1人いたが、ECMOを受けた人はいなかった。
4. 陽性判明時のコロナワクチン接種回数は0回が最多で約8割であり、罹患後症状のある状況で接種した人は約6割で、接種後の罹患後症状の変化は、改善が約1割、不変が5割、悪化が約4割であった。
5. 約4割が医療機関を受診し、その約3割はかかりつけ医であり、受診した診療科は、内科系が最多で約5割、次いで耳鼻科で約3割を占めていた。一方、約5割が受診先が分からず受診しておらず、受診した場合も改善は約4割で、約6割は改善せず。
6. 罹患時就業していた人の約3分の2で罹患後症状による仕事への影響があり、そのうち約4割が仕事の内容を変えたり、退職・休職・転職したりしていた。
7. 動悸、頭痛、脱毛、倦怠感、不安、気分低下、やる気が出ない、集中力低下、睡眠障害、記憶障害は、最も重い時と較べて現在の症状のつらさの改善が乏しく、現在も3～5割につらさが残っていた。
8. 嗅覚・味覚障害は、最も症状が重い時には全体の7割が経験し、全体の約半数で現在も続いていた。
9. 一番つらかった症状は、嗅覚障害が約2割で最多で次いで脱毛と味覚障害が多かった。